

## 第105回 病態生化学セミナー

日時：平成28年11月28日（月曜日）午後6時00分～

場所：医学部 図書館3階 視聴覚室

演題：Flt3/ITD 陽性白血病の治療抵抗機構

Molecular Mechanism Responsible for the Refractory Phenotype of Flt3/ITD<sup>+</sup>  
Leukemia

演者：福田 誠司 先生

島根大学医学部 臨床看護学 教授

急性骨髄性白血病の中で、Flt3/ITD 遺伝子変異陽性例は、小児では 10-15%、成人では約 30%の患者に見られ、再発しやすく非常に予後不良です。再発の原因の一つは骨髄中で白血病細胞が潜伏して生存し続ける「微小残存病変」ですが、その分子機構は十分に解明されていません。セミナーでは、私たちが最近解析を行っている、「Flt3/ITD 陽性細胞が骨髄微小環境に潜り込み浸潤する機構」、そして「Flt3/ITD 抑制剤に対して耐性を獲得する機構」に関して紹介し、これらを基にした治療戦略についてもお話しします。

【福田 誠司】

Internal tandem duplication mutations in the *FLT3* tyrosine kinase gene (*FLT3/ITD*) are found in 15-30% of patients with acute myeloid leukemia and are associated with a poor prognosis. This refractory phenotype is most likely due to presence of the residual cells that have escaped from the anti-cancer drugs or Flt3/ITD inhibitors in the protective marrow niche. The seminar will focus on our recent studies on the molecular mechanism responsible for the aberrant migration of the Flt3/ITD<sup>+</sup> cells and their resistant phenotype against Flt3/ITD inhibitors. The potential therapeutic strategies to overcome the refractory phenotype of Flt3/ITD<sup>+</sup> leukemia will also be presented.

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp

博士課程選択必修科目：基礎医科学(D3)、

博士課程選択科目：細胞生物学I(D6)、老化II(D20)、発生生物学I(D15)、発癌I(D22)、腫瘍生物学I(D24)、II(D25)、III(D26)、臨床腫瘍学I(D28)、II(D29)、III(D30)、IV(D31)、V(D32)、VI(D33)、地域がん治療学(D37-1)、口腔腫瘍学(D37-2)、薬物動態学I(D70)、腫瘍免疫学I(D79)、理工医学のための生物材料学(D103)

医科学専攻(修士課程)選択科目：

腫瘍の発生・増殖とその制御(M23)、理工医学のための生物材料学の基礎(M34)を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。